



段々と気候も涼しくなり、長久保公園や周辺の木々の葉っぱの色も黄色や赤色に変化し、本格的な秋の訪れを感じています。今月も元気いっぱいにお過ごし【〇〇の秋！】をみんなでたくさん満喫していきたいと思っております！

先月はコロナウィルスの影響により登園自粛のご理解、ご協力、誠にありがとうございました。今後も引き続き感染拡大防止の為に、室内の玩具や遊具の消毒を始め、体調管理、視診を引き続き行っていきます。



言葉について



0歳児・1歳児は言葉の獲得に大切な年齢です。そして沢山対話をしていく事がとても重要です。この時期に受けた言葉の量や質が将来まで左右しますので毎日一緒にいる大人の関わりはとても大切になってきます。まだ話せない子であっても一方的に話さず、相手が今どんな気持ちなのか、どんな事を考えているのか考え、思いを汲み取りながら対話するよう心掛けています。嬉しい事、楽しい事、悲しい事があればその気持ちを代弁し共感します。話す時には目を見てゆっくりと、はっきり話します。子どもは大人の話や耳で聞いているのと同時に口の動かし方もじーっと見て、口がどう動いているのかなとよく観察し真似をして口を動かしたり、一生懸命その言葉を言おうと頑張ります。

物の名称に対しても、例えばリンゴを指差しながら「ごっ」という子に対して「リンゴだね」と、その言葉を正しく正確に伝えます。「わんわん」や「にゃーにゃー」と言う子に対しても「犬だね」「猫だね」と正しい言葉を知らせています。一つ一つ丁寧に伝えていく事は子どもたちが沢山お話しをするようになるまでの大切な過程です。簡単な言葉の繰り返しや模倣を通じ、子どもの表情や身振り等、やり取りの中で発語を促していきます。「楽しい」や「嬉しい」と言ったり、伝える時は笑顔で伝えます。笑顔で伝える事で「楽しい」「嬉しい」という言葉は笑顔に繋がる等、場面に合った言葉を覚える事で言葉の理解が深まります。

2歳児になると言葉の数が増え「なに?」「どうして?」と質問する事が増え、色々な名前や物に興味を持つようになります。そして自分で考える、自分で決めるといった力も徐々についてきて、子ども自身で決めて行動できるような言葉掛けを心掛けています。例えば、「玩具はここにお片付けだよ」ではなく「この玩具はどうすればいいかな?どこにお片付けする?」と、一度自分で考えるような言葉を掛けています。この時「まだ遊びたい」という子もいますが、そのような時は「まだ遊びたかったね」と、その時の気持ちを一度受け止めた上で「次は何するんだっけ」「お片付けして終わったらおいで」等、自分で終わりを決められたり自分で次に何をするのか考えて行動するようにします。大人が全て決めて指示を出すのではなく、子ども自身で考えて行動するといった子どもが主体となり活動できるような声掛けをしています。

言葉を覚えた子どもたちは、生活の中で会話する姿がどんどん増えてきています。「貸して」「どうぞ」と簡単な言葉でのやり取りから「一緒に遊ぼう!」や「ご飯作ろう」など、2語文・3語文を使って遊びに誘ったりしています。泣いて自分の気持ちを伝えていた子たちも「やだ」や「こっち」等、自分の思いを言葉で伝えられるようになってきました。お話をするのが楽しい子どもたちは「今日はママと来た」や「パズルで遊びたい」「粘土したい」と大人に伝えてくれます。大人は「ママと何で来たの?自転車?」「どのパズルがいいかな?」「どの色の粘土がいいかな?」等、更に会話が広がるような質問を沢山しています。ぱんだ組のお部屋は子どもたちの声で毎日とってもにぎやかです。

今月の様子

